

### 第3回「京都御苑ずきの御近所さん」

葵祭行列保存会会長  
京都橘大学名誉教授

猪熊 兼勝 様



#### ■お生まれの場所が京都御苑のお近くと伺いました。子どもの頃の思い出で、京都御苑にまつわるものはありますか？

私のところは、代々応仁の乱まで猪熊通に住んでおりました。応仁の乱で住居を焼き出され、それ以来、流浪の旅をしております。

幕末の天保年間、祖父が京都御苑南東付近の公家長屋にあった親戚宅で生まれています。私は、寺町丸太町近くに住んでいましたので、子どもの頃の遊び場というと京都御苑と鴨川でした。京都御苑では、誰も門から出入りしませんでした。各自、自分の足に合った石垣の隙間を探して、出入専用のルートを持っていました。マイルートは寺町丸太町上る新島会館の向かいでした。あの付近、教会のところの前辺りが一番私の足に合う場所で、そこに決めていたのです。それが自慢だったんです。子どもの頃、蝉や蝶を採ったりしていたのですが、特に夏の夜になりますと懐中電灯を持って蝉の幼虫が土中からはい上がってくるのを採ってきて、朝起きると蚊帳の中が蝉だらけという、そういう楽しみというのか。蝉にとっては、かわいそうやけど。

戦後、間もなくで社会全体が荒廃していました。堺町御門の西の九條池付近で「もんどり」といって、餌を瓶の中に入れる仕掛けを使って魚釣りをよくしていたんです。鯉や鮒を捕ろうと思って。けれど、かかるのは亀ばかりだった思い出があります。

高校は、仙洞御所の東向かいの鴨沂高校に通っていましたので、何かにつけて寺町御門の銀杏の大木付近がたまり場でした。あの辺りでソフトボールもしました。高校の大運動会とクラス対抗のラグビー大会を行った場所は、現在、迎賓館になっています。そんなことで、御苑というところは、大変思い出深いところであります。子どもの頃の思い出というと、必ず御苑が目に見えます。いい環境の中で育ちました。

#### ■歴史に関わるお仕事をされるようになったのは、生まれ育った環境と関係はありますか？

曾祖父、祖父、父ともいろんな御縁で京都御所と関わっていましたので、自然と歴史に関心がありました。父は御所のことについていろいろと教えてくれました。父は御所にいつも参内しており、私もよくついて行き、いろんな御殿を拝見させて頂く機会に恵まれました。お正月になると、父は御所

で千秋万歳の新年を祝ったり、皇族や国賓の御案内などもしておりました。家庭でも、京都御所の話がよく出ました。京都御所の所長さんから毎日のように電話を頂いていました。葵祭の斎王代列誕生の頃です。私のところも有職故実について御所に仕えていた末端でありますから、いろんな親戚に多くのお公家さんの方々がいて、こられていました。冷泉さんの隣だった藤谷さんなどのお婆さんがよくお見えになって、おそらく半世紀以上前に舞われた五節舞を一生誇りにしてはったんやと思います。腰が折れそうなお婆さんの思い出話を横で正座して聞きました。

大学は考古学を専攻していたのですが、卒業論文は宮廷生活について書きました。また、修士論文は清涼殿をはじめとする宮廷生活の身分社会の中での家具類についてまとめさせて頂きましたが、こうした影響があるのかもしれませんが。後で祖父の日記で知ったのですが、祖父は香淳皇太后様の、御成婚のお道具類の御相談を受けております。

## ■歴史の専門家として、京都御苑の歴史に関して面白いと思われることはありますか？

京都御所と京都御苑は一体です。古代から、個々の重要な事態に重要な役割を果たしました。例えば、来年は大政奉還 150 年目の節目ですが、これを決断した小御所会議などが行われました。

本来、京都御所の中枢機能は千本丸太町を中心にしており、平安京内の主要な場所に貴族の邸宅を配置していました。中でも高級貴族は大邸宅を持ち、内裏が火災で焼亡した際には、御即位などは高級貴族の大邸宅が紫宸殿の代わりとなりました。いわゆる里内裏です。歴史的に京都御所の場所がだんだん東に移動すると、京内に分散していた貴族、つまり公家邸宅も京都御所周辺に集まりました。それが現在の京都御苑です。京都御苑に公家屋敷を集中させたのは、歴史的な社会情勢から見て、必然的なことでした。結果的に、効率的でもありました。ここでも、当時における高級貴族は別格扱いでした。天皇を中心とする皇族の住まいを京都御所と呼び、現在、宮内庁が管理されています。これに対し、公家屋敷の集合地を明治 10 年頃、石垣で囲い、戦後、国民公園・京都御苑として環境省が管理、整備されています。

環境省が管理されている京都御苑と、宮内庁が管理されている京都御所、その両方を含めて御所があるんです。京都市民にとって御所というのは神社仏閣とは違った意味での尊敬の念とでも申しましょうか、特別な思いを持って、単に「御所」と呼び大切にしてきました。私ら、今まで御所と呼んでいたのを、何で御苑っていうのですかと抵抗感があります。京都御苑の門は年中閉まりません。24 時間自由に入出入りできるんですよ。無料で開放されているけれど、みんなが気持ちの中で、ここは真夜中に入ってはいけないところだというふうな暗黙の了解ができています。そこが他の御苑と呼ばれているところとは違う意味があると思うんです。

ここは、日本の歴史について欠かすことができない一つの舞台とっては失礼ですが、そういう場であったわけです。強調されているのは幕末の騒動ばかりですけど、本来は天皇の住まいというものは古代から現代に至るまでいろいろと政治、社会情勢を抜きにしては語れない重要なエリアだったのです。京都御苑の中に武家屋敷が含まれていないのは興味があります。

## ■京都御苑で好きな場所、好きな時期などありますか？

堺町御門から入り両方に木が茂っていて、正面に建礼門がある風景です。京都市民が誇るロイヤルビューです。周囲は御苑の緑でいっぱい、この景観は残して欲しいものです。明治以降の景観ですが、京都人の誇りです。

この場所は毎年、5月の葵祭、10月の時代祭の出発地です。それぞれ緑の自然を背景にして、特に葵祭は、仮想の世界ではなく、1200年以上続く伝統の祭りです。何よりも、歴史的な環境の中で王朝の風俗を動態で見られる唯一の機会です。また、時代祭は、京都の歴史を本格的な衣装で知る教科書です。イメージだけの時代行列とは質が違います。京都御苑は、京都の文化を支える本物の舞台です。京都御苑の石垣は、毎年、京都駅伝で重要な背景となっています。京都御苑に入ると、四季の花があり季節の変化を敏感に感じます。その象徴的な近衛家のしだれ桜は、本当にすばらしい。

## ■京都御苑の今後について、御意見などありましたらどうぞ。

いろんな事情もあろうと思いますが、映画やTVドラマなどの舞台にも開放されては、と思うこともあります。ニュースで自然教室の話は出ますけれど、京都御苑の中の自然の雰囲気をもっと撮るような、そういう質の高い映像があんまりないんですよね。あのすばらしい景観をもっと多くの人々に知って欲しいと思います。京都文化の普及効果抜群と思うのですが。

そして二条城にある桂宮（八条宮）の建物を、御所の中の跡地に移転（戻）して、開放されてはと思います。何ととっても、旧宮家の建物として数少ない文化財ですから。

京都御苑についての整備計画もあると思いますが、将来を見通したものをつくっていただいて、それが市民にとってもいいものになっていただきたいと思います。



桂宮邸御殿

2016年7月29日 インタビュー  
聞き手：田村省二、山本昌世

○猪熊 兼勝さまプロフィール○ 1937年、京都市生まれ。関西大学大学院修了。奈良国立文化財研究所を経て京都橘大学名誉教授。葵祭行列保存会会長、時代祭考証委員長を務める。著書に『飛鳥の古墳を語る』（吉川弘文館）、『埴輪』（講談社）、『稲と権力』（学習研究社）。共著に「平安講社と時代祭」〈『平安神宮百年史』（平安神宮）〉、「都をどりの歴史」〈『祇園』（京都書院）〉などがある。